

提案 1

○科学と社会委員会運営要綱（平成 17 年 10 月 4 日本学術会議第 1 回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改 正 後				改 正 前			
(略)				(略)			
(分科会)				(分科会)			
第 2 委員会に、次の表のとおり分科会及び小委員会を置く。分科会及び小委員会の設置期限は当該期末までとし、委員長は期首及び適時に分科会及び小委員会の設置について幹事会に提案する。				第 2 委員会に、次の表のとおり分科会及び小委員会を置く。分科会及び小委員会の設置期限は当該期末までとし、委員長は期首及び適時に分科会及び小委員会の設置について幹事会に提案する。			
分科会	調査審議事項	構成	備考	分科会	調査審議事項	構成	備考
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
ゲノム編集技術と社会に関する検討分科会	- ゲノム編集技術と社会との関わりについての検討事項の整理 - 公開シンポジウムにおける意見交換の進め方	10 名以内の会員又は連携会員	設 置 期 間：平成 29 年 5 月 26 日～平成 29 年 9 月 30 日	(新規設置)			
(略)				(略)			

附則

この決定は、決定の日から施行する。

科学と社会委員会分科会の設置について

分科会等名：ゲノム編集技術と社会に関する検討分科会

※新規設置

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	科学と社会委員会
2	委員の構成	10名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	ゲノム編集技術は様々な医療応用が期待される一方で、生命倫理に係る問題も指摘されている。 2015年12月に開催された国際ゲノム編集サミットでは、多角的な検討が行われ、適切な規制の下での基礎研究の重要性が指摘される一方で、生殖細胞関連の臨床応用については社会からの広範な意見聴取の必要性が示された。 日本学術会議においては、課題別委員会「医学・医療領域におけるゲノム編集技術のあり方検討委員会」においてゲノム編集技術を医療に用いることの生命倫理上の問題点などを検討してきた。本年4月の公開シンポジウムでは、特にヒト生殖細胞の遺伝子改変に関する諸問題について引き続き社会との対話を続けることの必要性が指摘されている。 本分科会においては、ゲノム編集技術の課題と社会の関わりに関して、本年11月に開催が予定されているサイエンスアゴラにおいてシンポジウムを開催し、市民目線で議論を深めていくことを目的とする。 このため、期の終盤であるが、次期会期（第24期）の初めの開催準備のため、この時点で、新規分科会を科学と社会委員会の下に設置することを希望する。
4	審議事項	- ゲノム編集技術と社会との関わりについての検討事項の整理 - 公開シンポジウムにおける意見交換の進め方
5	設置期間	平成29年5月26日～平成29年9月30日
6	備考	

【機能別委員会】

○委員の決定（新規 1 件）

（ゲノム編集技術と社会に関する検討分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考	推 薦
井野瀬久美恵	甲南大学文学部教授	副会長、 第一部会員	第一部
石川 冬木	京都大学大学院生命科学研究科 教授	第二部会員	第二部
澁澤 栄	東京農工大学大学院農学研究院 教授	第二部会員	第二部
須藤 靖	東京大学大学院理学系研究科物 理学専攻教授	第三部会員	第三部
阿久津 英憲	国立研究開発法人国立成育医療 研究センター研究所再生医療セ ンター生殖医療研究部部長	特任連携会員	第二部
石井 哲也	北海道大学安全衛生本部ライフ サイエンス系研究安全担当教授	特任連携会員	第二部

※特任連携会員への任命については、提案 29 参照

【委員会及び分科会】

○委員の決定（追加 1 件）

（経済学委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
市村 英彦	東京大学大学院経済学研究科教授	連携会員
松井 彰彦	東京大学大学院経済学研究科教授	連携会員

【小委員会】

○委員の決定（新規 1 件）

（機械工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 IUTAM 分科会 国内対応企画小委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
藤井 孝藏	東京理科大学工学部情報工学科教授	第三部会員
岸本喜久雄	東京工業大学環境・社会理工学院教授	連携会員
菱田 公一	慶應義塾大学理工学部教授	連携会員
宮内 敏雄	明治大学研究・知財戦略機構特任教授、東京工業大学名誉教授	連携会員
緑川 光正	北海道大学名誉教授	連携会員

○委員の決定（追加 1 件）

（総合工学委員会原子力事故対応分科会福島第一原発事故調査に関する小委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
越塚 誠一	東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻教授	連携会員

日本学術会議協力学術研究団体への新規申込みがあった団体の概要

	団体名	概 要
1	法医病理研究会	法医病理学は中毒学的、免疫組織化学的、臨床検査医学的、ウイルス学的、細菌学的分析を含んでおり、また、応用化学という側面では、新しい手法や診断技術を積極的に応用、独自に開発していく必要がある。法医鑑定の精度を高めるため、会員相互の研究及び診断の進歩向上を図る。

○代表派遣：平成 29 年 7－9 月期の会議派遣候補者

	国際会議等	会期		開催地及び用務地	派遣者（職名）
		計			
1	第 28 回国際地図学会議、専門委員会	6 月 28 日 ----- 7 月 7 日	10	日 ワシントン D.C. ----- アメリカ	森田 喬 連携会員 (法政大学デザイン工学部教授)
2	Workshop on Networks and Control 及び国際自動制御連盟理事・役員会、関連会議、総会	7 月 5 日 ----- 7 月 15 日	11	日 ケンブリッジ、トゥールーズ ----- イギリス、フランス	原 辰次 連携会員 (中央大学研究開発機構教授)
3	第 49 回 IUPAC 総会、IUPAC 会議	7 月 9 日 ----- 7 月 14 日	6	日 サンパウロ ----- ブラジル	ラウレアン・イリエシュ 日本学術会議外国人アドバイザー※ (東京大学大学院理学系研究科化学専攻准教授) ※日本学術会議外国人アドバイザーの任命については、 提案 31 参照
4	国際宗教学宗教史学会理事会	7 月 8 日 ----- 7 月 12 日	5	日 ホーチミン ----- ベトナム	藤原 聖子 第一部会員 (東京大学大学院人文社会系研究科教授)
5	第 25 回科学史技術史国際会議	7 月 23 日 ----- 7 月 29 日	7	日 リオデジャネイロ ----- ブラジル	木本 忠昭 連携会員 (東京工業大学名誉教授)
6	第 38 回国際生理科学学会連合大会、理事会	7 月 29 日 ----- 8 月 5 日	7	日 リオデジャネイロ ----- ブラジル	御子柴 克彦 連携会員 (国立研究開発法人理化学研究所脳科学総合研究センターシニアチームリーダー)

7	世界人文学会議	8月9日 ----- 8月12日	4	日	リエージュ ----- ベルギー	井野瀬 久美恵 第一部会員 (甲南大学文学部教授)
8	ゴールドシュミット会議 2017	8月13日 ----- 8月18日	6	日	パリ ----- フランス	益田 晴恵 連携会員 (大阪市立大学大学院理学研究科教授)
9	第32回国際電波科学連合 (URSD)総会	8月19日 ----- 8月26日	8	日	モントリオール ----- カナダ	八木谷 聡 連携会員 (金沢大学理工研究域教授)
10	第24回国際結晶学連合会議、総会	8月21日 ----- 8月28日	8	日	ハイデラバード ----- インド	高田 昌樹 連携会員 (東北大学多元物質科学研究所教授)
11	国際海洋物理学協会/国際気象学・大気科学協会 2017年合同総会	8月27日 ----- 9月1日	6	日	ケープタウン ----- 南アフリカ	中村 尚 第三部会員 (東京大学先端科学技術研究センター副所長・教授)
12	各国若手アカデミー会議	7月19日 ----- 7月21日	3	日	ヨハネスブルグ ----- 南アフリカ	未定 ※調整中
13	2017 海洋研究科学委員会 (SCOR) 執行理事会	9月4日 ----- 9月6日	3	日	ケープタウン ----- 南アフリカ	山形 俊男 連携会員 (国立研究開発法人海洋研究開発機構アプリケーション ラボ特任上席研究員)
14	第3回アジア第四紀研究会議	9月4日 ----- 9月8日	5	日	済州 ----- 韓国	齋藤 文紀 連携会員 (産業技術総合研究所首席研究員、島根大学教授)

15	第 34 回 ICSU/科学計画評価委員会 (CSPR)	9 月 5 日	2	日	パリ	春日 文子 連携会員 (国立研究開発法人国立環境研究所特任フェロー)
		9 月 6 日			フランス	
16	アジア科学アカデミー・科学協会連合理事会	9 月 21 日	4	日	タガイトイ	大西 隆 第三部会員 (豊橋技術科学大学学長)
		9 月 24 日			フィリピン	
17	アジア科学アカデミー・科学協会連合地域ワークショップ	9 月 21 日	4	日	タガイトイ	未定 ※調整中
		9 月 24 日			フィリピン	

○平成 29 年度代表派遣実施計画の変更について
以下のとおり、実施計画の変更を行う。

		会議名称	派遣候補者 (職名)	派遣期間 (会期分)	開催地 (国)	備考
1	当初	G サイエンス学術会議 2017 共同声明のイタリア首脳への手交式を含む G 7 サイエンス・カンファレンス	花木 啓祐 第三部会員 (東洋大学情報連 携学部教授)	平成 29 年 5 月 2 日～3 日	ローマ(イタ リア)	会議名称/会期/開催地の変更 ※実施計画については第 244 回幹事会(平成 29 年 4 月 13 日開催)にて承認済み
	変更後	G サイエンス学術会議 2017 共同声明のイタリア首脳への手交式を含む G 7 サイエンス・カンファレンス <u>出席及び ICSU・ISSC 合併に係る意見交換</u>		平成 29 年 5 月 2 日～ <u>4 日</u>	ローマ(イタ リア) <u>及びパ リ(フラン ス)</u>	
2	当初	世界科学フォーラム (WSF) 運営委員会	花木 啓祐 第三部会員 (東洋大学情報連 携学部教授)	平成 29 年 6 月 26 日	パリ(フラン ス)	会議名称の変更 ※実施計画については第 242 回幹事会(平成 29 年 2 月 24 日開催)にて承認済み
	変更後	世界科学フォーラム (WSF) 運営委員会 <u>出席及び ICSU・ISSC 合併に係る意見交換</u>				

提案 7～11 は提言関係のため、資料 5 別添 2～6 を御参照ください。

提案 12～27 はシンポジウム関係のため、資料 5 別添 7 を御参照ください。